

2022年度
静岡ブルーレヴズ
ラグビースクールU-13
釜石遠征
実施報告書



2022年9月10日(土)・11日(日)に静岡ブルーレヴズラグビースクール U-13 (中学1年生) の19名が岩手県釜石市へ遠征しました。
東海地区の防災意識を高めることを目的とした震災学習に加え
釜石シーウェイブスアカデミーとの交流試合を実施いたしました。
活動の内容及びスクール生の学びをご報告いたします。

DAY
01

宝来館岩崎女将の講話
いのちをつなぐ未来館見学
釜石鵜住居復興スタジアム見学
東日本大震災時の避難路追体験

DAY
02

交流試合
VS 釜石シーウェイブスアカデミー



震災学習①

～岩崎女将の講話～

浜べの料理宿宝来館の岩崎女将から震災当時のお話を伺いました。釜石市鶴住居町の避難当時の様子や復興支援におけるラグビーの意義をお話しいただきました。

スクール生も真剣な眼差しで女将のお話を聞いていました。お話の後には、実際に避難路として使った道をみんなで登り、想像がつかないほどの高さまで海面が上昇し、津波が襲ってきたことを知ることができました。岩崎女将からは「しっかり学んでいれば、いざというときに生きる、そして生きられる」という熱いお言葉もいただきました。



震災学習②

いのちをつなぐ未来館

いのちをつなぐ未来館では大震災釜石の伝承者・釜石ラグビー応援団の川崎杏樹さんから、震災当時のお話を伺いました。

「備える」「逃げる」「戻らない」「語り継ぐ」この教訓は、静岡に帰ってからも周りの人に伝え、いのちをつないでゆきます。

また、釜石東中学校・鶴住居小学校（現 釜石鶴住居復興スタジアム）からの避難路を追体験し、スクール生も500mの急な坂道を全力で走りました。

後ろから黒い波が押し寄せる中、とにかく全力で逃げたと伺い、実際に体験することで、より一層の深みを感じる震災学習となりました。



交流試合



静岡ブルーレヴズラグビースクール U-13

67 - 0



釜石シーウェイブスアカデミー U-13



1
2
3
4
5
6

戸倉 涼太郎
石坂 洋翔
浅野 遼大
小野田 陽太
田中 瑛士
村山 琉英

7
8
9
10
11
12

小倉 健嗣
田畑 里恩
中嶋 海惟
磯部 恭徳
小池 壱星
坂本 航

R
R
R
R
R
R
R

高野 陽叶
鈴木 平太
土屋 平志朗
鈴木 柁太
田村 應介
鳥飼 瞭瑚
窪田 朗



大漁旗

今回、静岡と釜石の絆を繋げていく象徴として大漁旗を作成しました。この大漁旗には、静岡の象徴の富士山と釜石の象徴のはまゆりを織り込んでいます。また静岡ブルーレヴズと釜石シーウェイブス両エンブレムの間には、ラグビーボールを描きラグビーを通して育んできた友情を表しました。現在、この大漁旗は釜石市内で掲出して頂いております。

代表ご挨拶

今利 貞政 HC



釜石シーウェイブスアカデミーとの交流戦にご尽力頂いた方々、宝来館の岩崎女将や従業員の皆様、この度はこのような機会をいただきありがとうございました。子どもたちは、震災での壮絶な体験を聞かせていただき、日々の備えの大切さについて学ぶことができました。そして復興への想いと夢が詰まった釜石鶴住居復興スタジアムにて釜石の子どもたちを相手に全力でひたむきにチャレンジし、勝利をすることができました。試合後は笑顔で交流してくれていましたので、いつかどこかのグラウンドで友達として再会できることを願っています。

僕達はこの遠征に向けて二つの目標を立てました。一つ目は、東日本大震災の話聞き防災について学ぶことです。僕たちの住んでいる静岡県は南海トラフ地震による津波が想定されています。一番心に残ったことは、予想以上の事が起こり得るということです。釜石では12mの津波が来たそうですが、想像できない高さです。また、第1波よりも第2波、第3波の方が強く高い波になる可能性があるということも学びました。僕の家近くでも津波タワーや防潮堤が出来たりしていますが、それで安心と考えるのではなく、防災用品や避難場所の確認を家族としました。二つ目はラグビーについてです。僕達のチームはこれまで、コロナの影響であまり対外試合が出来ませんでした。今回は県外のチームと試合ができ、しかも会場はワールドカップの試合が開催された「釜石鶴住居復興スタジアム」だったので、とても感動しました。ディフェンスを目標に試合に挑み、チームみんなが目標を意識してプレーできて良かったです。この遠征を通じてチームワークもこれまで以上に良くなったと思います。これからも、チームの仲間とラグビーで高め合っていきたいと思います。そしていつかまた、釜石シーウェイブスアカデミーのみんなと対戦したいです。

村山 琉英 キャプテン



スクール生感想

女将さんのお話を聞かせてもらい、地震のすごさとラグビーの偉大さを知れました。

女将さんはラグビーワールドカップを開けないで終わると思っていたけれど、たくさんの人からの助けを受けて開くことができたことと仰っていました。本当の地震・津波の映像を見て、聞いて宝来館の避難道を使い、たくさんの人々が上がった道を知ることができました。

上からだ、津波が来ているかわからないと仰っていたので、実際に津波が来た時には戻らないようにしたいです。

また、いのちをつなぐ未来館では、東日本大震災ではマグニチュード9.0で世界で4番目に大きい地震で、第2波・3波の津波の被害が大きかったと分かり、これから地震が来ても下りずに逃げることができると思いました。

家族で話し合っ、避難場所や集合場所を決めたいと思います。

釜石市の中で鶴住居地区が一番被害が大きかったことが分かりました。また、第一波は建物を押し倒し、第二波は黒い波で一波よりも力が強い、第三波は防潮堤を破壊したことが分かりました。被災後は7日間自分たちで、できることを協力して過ごしていたそうです。

震災に対して日ごろから備えることが大切だと分かりました。例えば防災グッズの購入や家族と集合場所を決めておくことを前もってやっておきたいと思います。

試合ではスタジアムにたくさんの人が見に来てくれてとても緊張してしまい、練習の時のように動けるか心配でした。

試合には勝つことができましたが、たくさんの反省がありました。

試合をしてみて、釜石のみんなは最後まで応援されていたので、僕たちもたくさんの方々に応援されるチームを目指したいと思いました。

鶴住居復興スタジアムは、もともと鶴住居小学校・釜石東中学校があった場所につくられたことを知りました。

津波の映像を見させてもらったとき、その映像をテレビで見たことがあったので、その映像が宝来館のものだということを知りました。防災センターで160名以上の人々が亡くなり、避難所は仮の拠点で、避難場所は身の安全を確保する場所という違いがあることが分かりました。

試合ではYouTube配信されると聞いていたので緊張していました。ラックのサポートに速く着くという目標は60%くらい達成できていたと思います。試合中外までボールが回ってラックができた時にサポートが遅れてターンオーバーされる時があったので、次からの試合ではすぐにサポートに入っていきたいです。

津波が地震から10分後に第一波が来た。その後、第二波が来た。何回も来ることで波の高さも高くなってきたことが分かりました。60m近く高さがあった防潮堤も津波で壊れてしまいました。津波が起きた1日後には、自衛隊や警察の方がすぐに現地に入り、その後、ボランティアなどがたくさん来たそうです。

試合では、スタンドとフルバックをやってみて、20分間ずっと声を出すのがとても大変でした。試合の終盤では、ゆっくり走ってしまったところがあるので、反省して体力をつけていきたいです。

また、攻撃の時には前が空いていたり、迷ったりしたら当たり前に行くことも忘れないようにしたいです。

この試合でたくさん課題が見つかったので、今後の練習に生かしていきたいと思います。

東日本大震災についてこれまで詳しく学んだことが無かったので、良い経験になりました。静岡でも、いつ南海トラフ地震が来てもおかしくないで、日々の準備と心構えと意識が大切だと分かりました。

子どもたちが99.8%生き残ることができたのは、日々防災学習をしているからだを教えていただきました。学校でも避難訓練が年に3、4回あるので少ない時間の中でもその一つ一つを真剣に取り組むことで一つでも多くの命が救われるのだと思いました。今回学んだことは静岡に帰って活かせるものばかりだと思うので、日々の準備と心構えをしっかりとしたいです。

試合では、見ていてコミュニケーションが少なかったので周りとのコミュニケーションを積極的にできるようにしていきたいです。試合ではたくさん課題が見つかりました。

そのなかでもサポートが一番課題だと思いました。ターンオーバーをされそうな場面がたくさんあったので、これからは意識して練習をしていきたいです。

宝来館の女将さんのお話を聞いて、ラグビーが復興に大きくかかわっていることが分かりました。ラグビーワールドカップ2019の試合が開催されることを聞いて、スタジアムの建設を急いだこと、たくさん子どもたちが「ありがとうの詩」を歌い、貝でアートを使ったことが印象に残りました。

実際に津波の映像を見せていただき、すぐに逃げることを意識したいです。

自分たちの避難ルートをよく考えていなかったで、家族と一緒に相談していきたいです。また、いつどこで起こるかわからないので、今回学んだ教訓を生かしていきたいです。

試合では、ジャッカルやオーバーはしっかり入れていたが、ノックオンやオーバーザトップなどのつまらないミスをしてしまう場面が多かったので、練習から意識して直していきたいです。

Thank You

今回釜石遠征を実施するのにあたり、多大なるサポートを頂いた釜石シーウェイブスの皆様、宝来館岩崎女将様、株式会社PARK様、小岩井乳業株式会社 盛岡支店様に心より感謝申し上げます。

震災学習では、震災当時の映像を見ながらお話を聞き、また実際に避難路を歩くことによって、生徒達も普段からの備えの準備や、家族との災害時の具体的対応方法について話し合うことの重要性を知ることが出来ました。

交流戦につきましては、2019年実際にワールドカップが行われた、釜石鵜住居復興スタジアムで釜石シーウェイブスアカデミーの皆さんと試合が出来、生徒達にとって大変素晴らしい日となり、一生忘れることの出来ない試合となりました。

改めまして、釜石遠征に関わった皆様のご厚情への感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。

静岡ブルーレヴズラグビースクール事務局
久保 晃一